

令和3年度 第1回 帯広市地域自立支援協議会 差別解消部会 議事録【概要版】

日時：令和3年10月29日（木）18:30～19:58

場所：帯広市役所 10階 第6会議室

出席委員（30名）

講師（1名）

北海道自閉症協会 十勝分会 会長 新津 和也 氏

オブザーバー（1名）

十勝総合振興局保健環境部社会福祉課

事務局（6名）

帯広市 3名

十勝障がい者総合相談支援センター 3名

1 開会

2 挨拶 帯広市市民福祉部長

3 自己紹介

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、資料3座席表を各自確認頂くこととした。

※事務局より議事に入る前に会議趣旨について資料4、5に基づき説明を行った。

4 議 事

（1）相談事例の報告

事務局より、令和2年度の相談については、話を伺う事で解決をした事例はあるが、実際に対応を行った事例については無い事、令和元年度は合理的配慮の相談が1件、令和3年度は2件の相談について対応中である事の報告を行った。

（2）差別解消、合理的配慮に関するアンケート結果についてまとめ報告、意見交換

事務局より、資料1に基づきアンケート結果について、報告を行った。

30団体にアンケートを配布、回答は27件、回答率87%であった。

差別解消、合理的配慮への取り組みを実施し、継続している機関が増えてきている。

具体的な取り組みの内容として、コミュニケーションの手段の準備、相談対応の際の環境整備、あるいは研修の実施などの取り組みを行っているとの回答があった。差別的な対応や合理的配慮の不足に関して、差別的な対応または、配慮されていると感じた事例を紹介した。

また、帯広市の取り組みとして手話の出前講座についても紹介を行った。

(3) 障がい者の『困りごと』について～障がい特性、配慮についての情報提供～

北海道自閉症協会十勝分会の会長であり、十勝圏域の地域づくり推進員の新津 和也氏より、「十勝圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」が作成した動画を用いながら差別解消や合理的配慮について講演いただいた。

(講演内容)

障害のある方の困り事は、障害の種別や状況によって異なり、実際に聞いてみないとわからない。自分たちだけではなく、地域の人たちにも知ってもらいたいという思いから、地域づくり委員会においてDVDを作成するに至った。

身体障害、知的障害、発達障害、難病などの障害分野ごとに作成されたDVDを視聴。体幹機能障害者が車いすを押してもらった時に感じるスピード感や恐怖、冬の北海道の環境下での外出などは車いす体験をただではわからない事、環境整備の重要性や知的障害で自閉症スペクトラム障害の方への対応や配慮の事例について紹介。

なぜ合理的配慮が必要なのかというと、本人が過ごしやすくというのはひとつ大事なことだが、一緒に暮らして合理的配慮をすることで自分も楽になるということがある。いろいろな方達と一緒に暮らしていく中で、できる範囲でちょっと環境を変えていきお互いが楽に暮らしていくことが、合理的配慮の基本的な部分。

合理的配慮ができてないと声高らかにいうものでもなく、そこに一緒に過ごす方達が、お互い良い気持ちで過ごせる時間を追求するために合理的配慮というのがあるのではないかと。実現というのは非常に遠いことなのかもしれないが、ひとりずつがちょっとずつ意識することで変わっていくのではないかと。自分の知らないことを知っていけるということは、本当に楽しいことでもあると思っている。

○委員からの感想

平成28年に起こった津久井やまゆり園の事件について、当時、大きな衝撃を受けた。知的障害は理解されにくい部分やどう支援したら良いかわからない事もある。まずは知ってもらう活動が必要だと感じた。啓蒙活動について、自分たちも頑張っていきたい。

(4) 意見・情報交換

オブザーバーより、差別解消、合理的配慮の民間企業への義務化についての説明を行った。

(5) その他

事務局より、実務者会議の開催を必要とする相談事例があった場合の関係構成員の協力を依頼した。